

第1回流域協議会での 意見と対応

令和8年3月26日
新潟県

第1回流域協議会の開催状況

・新島崎川水系河川整備計画 流域協議会(第1回)

開催地	開催日時	会場	出席者
長岡市	令和8年1月27日(火) 13:30~16:15	長岡地域振興局 地域整備部 与板維持管理事務所 1階 会議室	◇流域協議会委員 11名 陸会長、鳥居委員、池浦委員、 山田委員、宮田委員、桑葉委員、 金子委員、川瀬委員、江田委員、 小林委員、長谷川委員(代理出席)



第1回流域協議会における主な意見と回答(1)

項目	主な意見	事務局回答
治水に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼなどが浸水していても民家が浸水しなければ水害と見なされないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼが浸水していれば水害と言えるが、水害統計の整理では、当該地域の水害は内水氾濫と整理されており、川からの氾濫とは言えないということである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時、円上寺隧道の入口が満水でも、出口からあまり水が出ていないように見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時の円上寺隧道の状況について、何かできることはないか持ち帰り検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・整備計画に記載の生物の中には、現在は生息していないものや、周辺の生息地から偶発的に移動してきた種(本流域を生息地としていない種)がいるのではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査の状況について確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・双川橋の水が抜ける二つの穴について、ゲートを設置するという話を聞いたが、県で実施するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・双川橋の上流は、新島崎川の指定区間外となるため、持ち帰り他の機関などに確認する。

第2回流域協議会において整理する事項

- 円上寺隧道について(今回説明①)
 - ・洪水時の流量について

- 整備計画に記載の生物について(今回説明②)
 - ・環境調査についての確認結果
 - ・オジロワシについて
 - ・そのほかの生物への影響について
(第1回で話題となった生物
ダルマガエル、サンショウウオ、カヤネズミ、クロベンケイガニ)

- 双川橋のゲート設置について(今回説明③)
 - ・ゲート設置予定の有無
 - ・誰が何のために設置するのかについて

- 河川整備計画(原案)に記載した新島崎川流域及びその周辺で確認されている動植物は、国土交通省による大河津分水路環境調査、信濃川河川環境調査、信濃川水辺現地調査、新潟県野鳥愛護会による生息状況調査、日本野鳥の会新潟県会による文献、越佐昆虫同好会による文献、長岡市立科学博物館による文献、分水町史、和島村史等の計99の文献を対象として確認したものである。
- 従って、過去に新島崎川流域及びその周辺において確認されているものであり、必ずしも現在の新島崎川を利用し、生息・生育していることを意味するものではない。

確認した文献一覧表(一例)

No.	文献名	発行年	発行者	調査年度	出典	分類群										
						魚類	底生動物	鳥類	植物	両生類	哺乳類	陸上昆虫類				
1	本間義治・鶴田教明・正司正・井上信夫「新潟県魚類目録補訂(文Ⅶ)」	2005	柏崎市立博物館	1997~2004	柏崎市立博物館館報	○										
2	H29信濃川水辺現地調査(魚類)業務報告書	2018	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2017	-	○										
3	平成28年度大河津分水路環境調査検討業務報告書	2017	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2016	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	平成27年度大河津分水路環境調査検討業務報告書	2016	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2015	-	○			○	○						○
5	平成27年度大河津分水路河川環境調査業務報告書	2016	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2015	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	平成27年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務報告書	2016	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2015	-	○			○	○						○
7	平成26年度大河津分水路周辺環境調査業務報告書	2015	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2014	-	○	○	○	○	○						○
8	平成26年度大河津分水路環境調査検討業務報告書	2015	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2014	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	平成26年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務報告書	2015	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2014	-	○			○	○						○
10	平成25年度大河津分水路河口域環境調査検討業務報告書	2014	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2013	-	○			○	○	○	○	○	○	○	○
11	平成25年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務報告書	2014	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2013	-	○			○	○						○
12	平成24年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務報告書	2013	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2012	-				○	○						○
13	平成23年度大河津地区環境調査業務報告書	2012	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2011	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	平成23年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務報告書	2012	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2011	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

確認した文献一覧表(一例)

No.	文献名	発行年	発行者	調査年度	出典	分類群										
						魚類	底生動物	鳥類	植物	両生類	哺乳類	陸上昆虫類				
86	石月升「ナゴヤササエ(Stylurus nagoyanus Asahina)の白尾羽化と海陸風の関係についての考察」	2000	越佐昆虫同好会	1996~1999	越佐昆虫同好会会報.82.9-26											○
87	伊藤寿「新潟県におけるギフチョウ産地および採集記録」	2000	越佐昆虫同好会	1990~2000	越佐昆虫同好会会報.83.1-33											○
88	桜沢英郎「オオセズイトンボの新産地」	2000	越佐昆虫同好会	2000	越佐昆虫同好会会報.83.71											○
89	片桐正隆「温暖化に伴う新潟県におけるツマクロヒョウモン・Argyreus hyperbius hyperbiusの分布と南方系チョウ類の北上化傾向との関連について」	2001	越佐昆虫同好会	1998~2000	越佐昆虫同好会会報.84.39-48											○
90	佐藤良次「故柳倉九郎氏収集のトンボ標本」	2003	越佐昆虫同好会	1990~1995	越佐昆虫同好会会報.88.43-51											○
91	桜沢英郎「備忘データ№2 オオツノトンボ等の記録」	2004	越佐昆虫同好会	1990~2003	越佐昆虫同好会会報.90.82											○
92	伊丹英雄「アメリカジガバチ Sceliphron caementarium (Drury) の記録」	2004	越佐昆虫同好会	2003	越佐昆虫同好会会報.91.51											○
93	櫻井精「新潟県産クサガレウ科目録 付・近県で採集した種類の記録」	2005	越佐昆虫同好会	1996~2004	越佐昆虫同好会会報.93.1-5											○
94	山田洋「三分水町のジャコウアゲハ」	2005	越佐昆虫同好会	2003~2004	越佐昆虫同好会会報.93.60											○
95	樋熊清治・櫻井精「西川流域の昆虫」	2005	越佐昆虫同好会	2003~2004	越佐昆虫同好会会報.93.61-90											○
96	山屋茂人「西山丘陵の甲虫類」	2005	長岡市立科学博物館	~2004	長岡市立科学博物館研究報告.40.39-76											○
97	山屋茂人・岩瀬謙・岩瀬圭吾・岩瀬雅人「西山丘陵、三島町鳥越の昆虫」	2006	長岡市立科学博物館	1998~2005	長岡市立科学博物館研究報告.41.35-58											○
98	平成27年度信濃川水辺現地調査(陸上昆虫)業務報告書	2016	国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所	2015	-											○
99	和島村史 資料編 I 自然・原始古代・中世・文化財	1996	和島村	-	-	○	○	○								○

- オジロワシが確認されている文献は、下表に示す7つの文献である。
- 別の文献(「新潟県長岡市の信濃川に飛来するオジロワシの越冬生態」)によると、長岡市で越冬しており、信濃川の長岡大橋～蔵王橋の河畔林をねぐらや採食場所として利用しているとされている。
- このことから、オジロワシが必ずしも新島崎川を利用しているかは定かではないが、新島崎川流域や周辺に飛来していることを否定することもできない状況である。

オジロワシを確認した文献一覧表

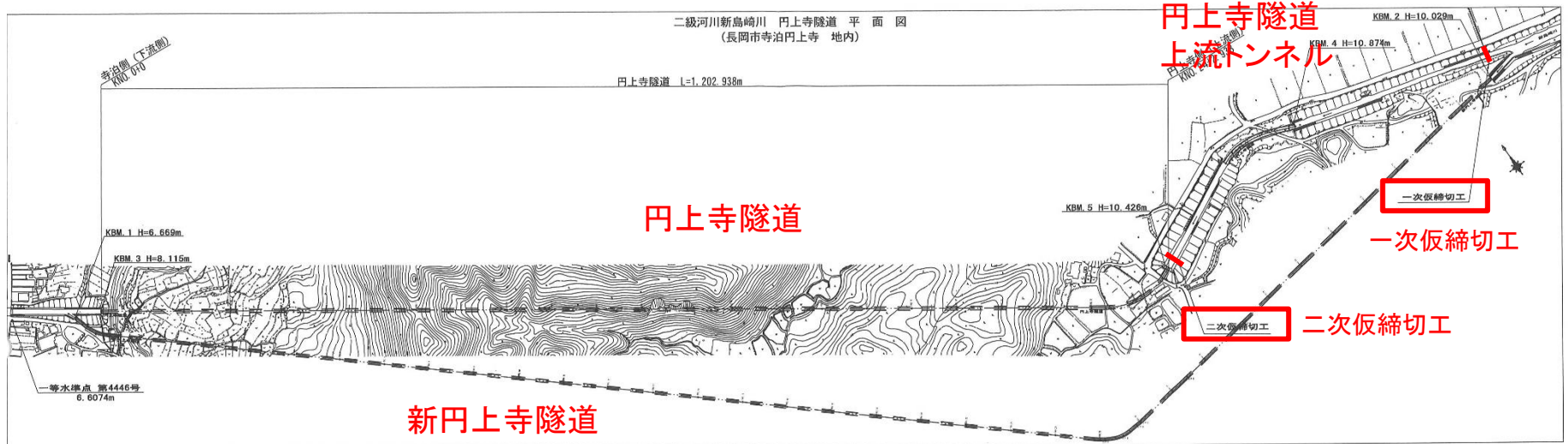
文献No.	文献名
6	平成27年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務 報告書
9	平成26年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務 報告書
11	平成25年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務 報告書
12	平成24年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務 報告書
14	平成23年度大河津可動堰改築環境モニタリング調査業務 報告書
16	平成21年度大河津分水路環境影響評価検討業務委託 報告書
99	和島村史 資料編 I 自然・原始古代・中世・文化財



- 円上寺隧道の補修は、過去にレジンコンクリートパネル工法を実施しており、本工法は濁水、粉塵等が飛散するような工法ではない。
- また、整備計画で位置付けている隧道補修を実施する際は、補修する隧道を堰き止め、もう一方の隧道に水を流すため、新島崎川の流量、河川環境は維持されるため、特に新島崎川に生息する水生生物等にも大きな影響はないものと考えられる。

H27年度 設計図より

仮締切工 計画図 (参考) S=1:100



横断面図

一次仮締切工 (参考)

側面図



トウホクサンショウウオ



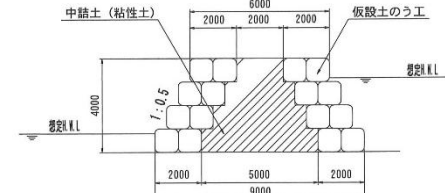
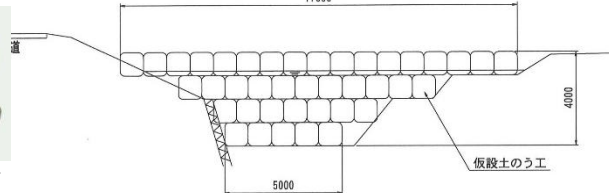
カヤネズミ



クロベンケイガニ



トウキョウダルマガエル



③双川橋下流の馬鹿川から新島崎川へ抜ける二つの穴（通称：めがね橋）に堰を付けることについて

○長岡農林振興部の県営かんがい排水事業（大河津地区）の中で馬鹿川排水路の改修計画あり。（延長：約1,900m）

○馬鹿川の整備は令和6年度より着手しているものの、事業の本格的な実施はこれから。

○馬鹿川の改修により新島崎川へ負荷を与えないため、「めがね橋」にゲートを設ける構想があると聞いているが、河川管理者への具体的な協議等はない状況。

